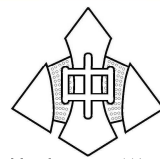


- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和2年6月26日(金)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

手をたずさえて

“学校の本来の姿”が戻ってきました!! 2年“体育祭”実施

6月23日(木)の午後には、2年のミニ体育祭が実施されました。今回はクラス対抗のバレーボール大会でした。多くの生徒達の生き生きとした楽しそうな姿を見ることができました。6月19日には市教委から「感染リスクの高い学習活動について」の通知が出され、今まで感染リスクが高いとされ実施を控えてきた「音楽科の歌唱やリコーダー等の管楽器演奏」、「家庭科の調理実習」、「保健体育科の生徒が密集したり近距離で組み合ったりする運動」、「運動会、文化祭など生徒が密集して長時間活動する学校行事」などの活動について、適切な感染症対策を行った上で再開してよいとの指示がありました。もちろん、感染症対策を徹底し、感染リスクの低減を図りながらの活動であり、内容によってはもう少し状況を見ながらその実施を判断しなければならない活動もあります。

しかしながら、今回の2年生の体育祭は、とても良いタイミングでの実施だったと思います。まさに学校生活に活気と潤いを生み出す活動であり、これがまさに“学校の姿”であると実感することができました。“学校の本来の姿”が戻ってきました。7月7日には第2弾としてミニ運動会を実施する予定です。1・3年生においても、今後学年ごとに体育祭の実施が計画されています。

今後、教科の学習等において必要性のある活動や延期になっている学校行事等について、重点化を図りながら段階的に活動を再開していきたいと考えています。



みんな“いい顔”をしていました!

『一挨拶』 ~なぜ“挨拶”が大切なのか~

(いちあい いっさつ)

挨拶が必要だと思う理由は、挨拶をされるとうれしい気分になるから。また、しゃべったことがない人とも親しくなるきっかけになっていくと思うから。近所の人に挨拶をされることで、学校の登下校中にさわやかな気分になる。校内でも挨拶をすることで、コミュニケーションがとれる。これからも挨拶を聞いた人がうれしく元気になるような挨拶をしていきたい。(I・Y)

挨拶をすると、自分も相手も心が豊かになるし、気が楽になると思う。また、挨拶をしないと、気が重くなってしまう人もいると思う。周りの人も私も挨拶はしてるが、小さい声でかわされる時がある。今よりもっと自分から挨拶することを日々心がけ、挨拶をされた側が明るく気が楽になるような挨拶をしていきたい。(T・A)

「挨拶」について考えた2年3組の道徳の授業での2名の生徒の想いです。

今日は「挨拶」について話をします。今の小原田中の「挨拶」の現状を、みんなはどう思いますか？
きみたち一人一人は、自分自身の「挨拶」をどう評価しますか？

毎朝、石井先生、浅野先生と3人で校門に立つ中で、我々の目を見て、しっかりと挨拶してくれる人がいます。時折、遠くからでも離れて立っている我々に対し、「おはようございます」と大きな声で挨拶をしてくれる生徒もいます。日中廊下ですれ違つと、「こんにちは」とはっきりと挨拶できる生徒もいます。

こちらに伝ってくる挨拶をうけると、とてもすがすがしい気持ちになります。そして、最近になってしっかりと挨拶のできる人が増えてきました。

しかし、まだまだ改善の余地はあると思います。朝の挨拶でも、挨拶のできていない人もいます。挨拶をしていても（自分では挨拶しているつもりでも）、こちらに伝わってこない人もいます。友達との会話のついでに形だけの挨拶をする人、中にはこちらから挨拶しても挨拶が返ってこない人もいます。少し距離が離れば、挨拶ができない人も意外に多くいます。



今日は、きみたちにもう一度、「挨拶」について考えてほしい。

仏教の禅宗で使用されていた【一挨拶】（いちあいいっさつ）という言葉があります。【挨（あい）】には「押し開く」、【拶（さつ）】には「迫る」という意味があります。お坊さんが弟子の肩をたたいて「がんばっているか」と聞き、弟子が「はい、今日もはげんでおります」と答える。このようなやりとりが【一挨拶】であり、この問答が挨拶の語源となっています。相手の気持ちをやわらかく押し開いていく…そういった意味合いが、この漢字にこめられているのです。



校門での登校指導

では、挨拶はなぜこれほどまでに大切だと言われているのでしょうか。挨拶が大切と言われている理由にはたくさんありますが、その中の二つを紹介します。

一つには、挨拶は、やはり社会の基本となるルールのひとつであり、常識だからです。

基本的な社会のルールとして「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」「はじめまして」などの簡単な挨拶が出来るのは、社会人としての最低限のマナーです。これが出来ないのでは、常識のない人とみなされて、社会的な評価は低くなります。会社を経営する社長の多くが、挨拶のできる人材を欲しがっているのも当然のことかもしれません。

二つめには、前述の2名の生徒のように、挨拶をするほうもされる方も、気持ちが良いからです。

誰かに挨拶されたから、流れで気持ちをこめず、ただ口を動かすように挨拶をしている人がいます。これではとても機械的で、言う方も言われる方も、気持ちが良いものではありません。だからこそ、挨拶には、心をこめることが大切なのです。そして相手の目を見て、笑顔で、そして相手に伝わる声で挨拶の言葉を発すること。とてもすがすがしい気持ちになるはずで、気持ちの良い挨拶をしてもらえた友達や同僚たちは、もっと気持ちが良く、さわやかな気分になるでしょう。

きみたちに声を大にして言いたい。

挨拶を決して馬鹿にしないでほしい。そして、挨拶の大切さを知ってほしい。

たった数文字の言葉なのに、挨拶は、計り知れない力を持っている魔法のツール（道具）です。ちょっとした言葉だけで、こんなに沢山の効果が得られるのであれば、有効活用しない手はありません。そして、挨拶には何の道具も、何の準備もいりません。ただ笑顔で言葉を発するだけで、人間関係を円滑にし、新しい人との絆を作り、相手を良い気分させるだけでなく、自分自身の評価をあげ、気分も良くしてくれます。



昼の放送では、今日の登校状況として「今日、気持ちのよい挨拶をしてくれた人は…」と名前の発表等があります。生徒会役員や週番委員会の生徒による朝の挨拶運動も行われています。挨拶は、学校生活に活気と潤いを生み出すために必要な最も基本にある重要な行為です。自分自身の挨拶を評価した上で、挨拶の意義をよく考えてほしいと思います。朝の挨拶はもちろんですが、日中や帰りの挨拶、さらには、学校への来客に対する挨拶など、様々な場面において活発に相手に伝わる挨拶が行き交う学校にしてほしいと願っています。～放送による校長講話（6/26）より～



心癒やされる紫陽花

生活が雑になったり、いい加減になったりしていませんか？

学校が再開し1ヶ月以上が経過し、学校生活にも“慣れ”がでてきたと思います。手洗いの徹底、マスクの着用（運動時など、マスクを着用しなくてもよい時もある）、こまめな換気など感染症対策にしっかり取り組んでいますか？

また、最近、登下校のルール違反（自転車通学者の走行マナーやヘルメットあごひもの未装着、下校時の寄り道等）、不要物の持ち込みなどが見られました。感染症対策を含め、決められたルールを守ることは当たり前のことです。学校生活の慣れから、生活が雑になったり、いい加減になったりしていないか、自分自身を見つめ直してください。

